

# 探検香港 街・人・自然

—— 子どもと出かけて一層わかる 香港の素晴らしさ ——

前香港日本人学校小学部香港校 教諭

岐阜県可児市立東可児中学校 教諭 伊藤 敦子

キーワード：在外教育施設、香港日本人学校小学部香港校、国際理解、校外学習

## 1. はじめに

香港日本人学校に勤務させていただく機会をいただき、この3年間での現地での日常生活はもちろん、国内から文科派遣されている教職員の方々、ネイティブの英会話スタッフたち、運転手や警備、清掃スタッフという様々なの方々、学校の校外学習を通して知り合った方々との関わりは、何にもかえられない大きな財産となった。

特に、児童を伴って数多く出かけた『校外学習』での経験は、在外教育施設に勤務させていただけたからこそ体験できる、現地の魅力あふれる姿を児童とともに感じる機会であった。

## 2. 香港のまち いろんな発見が待っている！ ～社会科『町たんけん』～

### (1) 地元のまち 跑馬地（ハッピーバレー）を歩こう！

香港日本人学校小学部香港校は、ハッピーバレーの一角、藍塘道（ブループールロード）にある。社会科の「学校のある地域のたんけん」の学習では、学校からハッピーバレーのトラム終点までのおよそ2kmを歩く。

普段の生活では通らないような裏道を散策しながら、工事をしている人たちに、

「ネイホー！（こんにちは）」

すれ違う街の人に道を譲ってもらって、

「ムゴイサーイ！（ありがとう）」

「先生、『日本人です。』って何て言うの？」

「ムゴ ハイ ヤップンヤン」

「ムゴ ハイ ヤップンヤン」

気軽に会話を楽しみながら探検をする。

「こんなところに幼稚園があるね。」

「普通のフラット（居住スペース）のビルの下が自動車の修理工場だねえ。」

「公園があるね。日陰でいいね。いろいろな人が休んでいるね。」

と、気ままに立ち止まりながら、白地図にメモをしていく。

バスやタクシーがひっきりなしに走る表通りには警察署や郵便局、たくさんのお店、観光客向けのガイドブックに出ているようなレストラン。

「このパン屋さんはおいしいよ。」

「『竹園』や『誉萬坊』は有名なんだよ。」

「警察にはパトカーやバイクがいっぱい。すごいねえ。かっこいい。」

ハッピーバレーに住んでいる子どもは、「わが町」意識で張り切って説明を続け、クラスの他の子どもたちは、興味津々に見ながらうなずく。

日本人学校に通学して来る子どもたちは、日本人がたくさん住む地域に住んでいることが多いので、香港の方々や西洋の方々がたくさん住むハッピーバレーの「町たんけん」は、香港のまちをより一層、直に感じる機会となった。



ハッピーバレーのバス通り

## (2) 香港のいろんなまち トラムに乗って！

マカオへ行くフェリーターミナルがある上環よりもっと西，MTRはまだ通っていない屈地街地区にトラムデポー（発着所）がある。そこからトラムに乗って，上環（ジョンワン）→中環（セントラル）→金鐘（アドミラルティ）→灣仔（ワンチャイ）→跑馬地（ハッピーバレー）を往復2時間のミニトリップをする。トラム会社の方の計らいで，現役最古のたった1台のトラム（64歳）に乗車させていただくことになった。



トラムに乗って香港島の北側を西から東へ

地区が変わるごとに，特徴が変わるトラム沿線。

上環（ジョンワン）は間口の狭い昔ながらの乾物店が軒を連ね，店の外にまで干物のにおい。

中環（セントラル）に来るとIfcをはじめとする香港の有名どころの高層ビル群，銀行の本店，中国系のデパート，欧米のブランドショップなどの洗練された建物に囲まれる。

金鐘（アドミラルティ）にはLIPPO CENTREなどのデザインビルや高等法院。高層ビルに囲まれた香港にいて忘れることしてしまうほどの植物と動物がたくさんある香港公園。

灣仔（ワンチャイ）には昔ながらの屋台や街市。そこにひしめくパワーあふれる人々。たくさんの観光客。私の住んでいる大好きな街。

跑馬地（ハッピーバレー）には有名な競馬場やサッカー場。

「するめみたいな，いいにおい！」

「あれは，ひげそりビル。お父さんの会社があるよ。これがエビビル。向こうはカニビル。」

「コアラビルはコアラがビルに抱きついていてみたいだからだよ。オーストラリアの人がデザインしたんだって。」

プリントの写真と実際に目にする建物を見比べながら，見つけた物に印をつけ，目を輝かせ，興奮気味に会話も弾む子どもたちであった。

## 3. 香港の山 いろんな発見が待っている！ ～理科『自然観察』～

### (1) 学校の裏山 渣甸山（ジャーディン山）～畢拉山（バトラー山）

立ち並ぶ高層ビル群の印象が先走る香港。しかし，亜熱帯気候ということを出させる植物や生き物などに会える自然も多いに備えている。

香港校の敷地内には，十分な自然観察スペースがない。しかし，学校の裏手には，低学年が自然観察に利用する小高い山（丘？）ジャーディン山がある。

そこから更に足を延ばしてバトラー山に向かう林間トレイル・Tree Trailのコースに出かけて行った。このコースは普通に歩けば1時間もかからないくらいの道のりである。しかし，多くの草花，樹木，昆虫などに出会える自然いっぱいのコースであるため，じっくり時間をかけて観察するにはふさわしい。

ジャーディン山の中腹までたどり着くといよいよここからがTree Trailのコースだ。木々に囲まれた平らな道が続く。子どもたちは早速虫眼鏡を取り出し，右に左に上に下に大忙し。



何を見つけても虫眼鏡でのぞきこむ

「見て見て，何か泡がある。この葉っぱの間。」

「これは，カエルの卵だよ。図鑑で見たよ。」

「えっ，カマキリの卵だと思った…。」

所々で足を止め，虫めがねを覗き込み，『たんけんバッグ』に挟んだ観察日記に鉛筆を走らせる。ゆったりと巡るこのコースは，好奇心旺盛な子どもたちにとって，理科の観察には十分なコースであった。

## (2) 香港の名所 山頂（ビクトリアピーク）

ビクトリアハーバーをはさんで、香港サイド・九龍サイドが良く見える観光名所：ビクトリアピーク。いつ行っても、多くの観光客を目にする。周遊道からの景色は観光の隠れた穴場であると思う。

そのピークの周遊道を歩きながら香港の様子を上から観察する。その後、薄扶林Trailコースを歩き、自然観察をしながら香港島のさらに西側・數碼港（サイバーポート）付近に向かう。遠足を兼ね、お弁当持ちで少し長い距離を歩くコースだ。

駐車場でスクールバスを降り、整列をしていると、

「日本人？」

と声をかけていらした日本人観光客の方々。

「日本人学校です。」

「ここからは、香港の景色が良く見えますよ。」

子どもたちはうれしそうに話に答える。

香港の方々だけではなく、いろいろな方々に優しく見守られていることを実感する。

周遊道を歩いていくと、季節がら大きな毛虫があちらこちらではっている。ありの行列。紫色のつやつやした草の実。トトロの傘にもなりそうな大きな葉。ジョギングや犬の散歩をしている方々に人懐っこく挨拶をする。

「ネイホー！」

「ハウ レン ア！（かわいいね）」

「バイバーイ！」

時折、右手の木々がさっと開ける。ピークからの景色は絶景で、普段は下から見上げているビル群を悠々と上から眺めることができる。

「シャープペンビルがある～！！」

「ビクトリアハーバーにたくさん船があるね。」

「九龍のあのビルが、今、香港で一番高いんだよ。」

「空港に行く橋も見えるよ。」

子どもたちは、見たことのある建物を見つけては指を指し、説明を始める。

薄扶林Trailコースに入り、緩やかに下っていくと、たくさんの木々や草花。前日に雨が降ったため、所々に小川も見られた。

「アメンボがいるよ。」

「おたまじゃくしだー！ …何で？」

「あー、小さいカニが歩いて行った！！」

香港の山は岩盤でできている。そのため、湧水はなく、山で見られる小川は雨が降った時にだけ流れると聞いている。そんな小川にアメンボやおたまじゃくし、沢がにまで。子どもたちと一緒に私も驚いて声を上げてしまった。



ビル群やハーバーを臨む

## 4. おわりに

毎日が発見の連続。毎日が驚きの連続。毎日が感動の連続。これは、私の日常生活であり、子どもたちの姿であり、学校での学習であり、校外学習であり…。

香港日本人学校小学部香港校に赴任させていただき、子どもたちと学校生活を共にする中で、香港のあちらこちらに出かけ、様々な街・人・自然と触れ合う機会をいただいた。香港という土地柄に触れ、文化に触れ、生活に触れ、人々に触れた。子どもたちと一緒に出かけることで、香港への新鮮な驚きだけでなく、この国で育っている子どもたちの、まさに国際人とも言える、元気で一生懸命な姿にも感激した3年間であった。

広い視野、鋭い感受性、感謝の心。私自身もとても大切なものを振り返る機会をいただいた。帰国した今も、まだまだ日々成長し、今、目の前にいる子どもたちに多くを返していきたいと強く思っている。